

地域創成研究センター登録研究会・地域貢献組織 平成22年度 補助団体活動報告書

平成23年 3月31日

研究会名	NPO法人 愛媛アカデメイア
代表者名	代表理事 岡村 茂
本年度の活動概要	<p>愛媛大学に本拠を置く、NPO法人愛媛アカデメイアは設立当初より地域創成研究センターの登録団体として活動を行ってきた（2009年以降）。</p> <p>その主な活動は、(1)社会人基礎力講座を開き学生の就職活動を具体的に支援すること、(2)地域の人材を育成するためのビジネス講座を開催すること、(3)地域企業との具体的な交流・インキュベーションのプロモーションをおこなうことなどの内容である。</p>
補助費を使用した活動とその費用内訳	<p>補助金により、2010年11月19日（金曜日）に第三回の愛媛ビジネススクールを開催することが出来た。</p> <p>当該の講演会では、東京より株式会社ガイアックス・シニアディレクター上田浩司氏をお招きして、これから社会人になろうとする方や地域企業の担い手としてビジネス・スキルを高めたい方を対象として、セミナーを催した。</p> <p>補助金により、上田氏の航空運賃を支弁させていただいた。</p> <p>大阪→松山→東京と上田氏の業務の関係から変則的な形となったが、講師の航空運賃として補助金10万円より65,450円（学内出張ナビによる）を費消した。なお、残額は法人事務局の内部での組織が未熟なため、思い違い等が重なり執行できませんでした。おわび申し上げます。</p> <p>成果は以下の通りです。ご支援に感謝致します。</p> <p>ビジネス最前線の上田先生が、社会人必須のビジネスサイクルを中心に講演をいただき、特に、以下の主題によって実務と企画部門の連関などビジネス現場の諸問題を分かりやすく論じていただいた。愛大、松大の学生を中心に参加人数21名。以下に催しの概要を記しておきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題：「社会人必須：PDCAサイクルのまわしかた」 ・日時：2010年11月19日（金曜日）16時00分より 120分程度 ・場所：愛媛大学校友会館サロン ・講師：上田 浩司 先生 <p style="text-align: center;">*株式会社ガイアックスのシニアディレクターとして地域企業おこし、法人向け新規ICTサービス分野などを開拓、後進の指導にも定評がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象：全学部学生、大学院生、教員、職員、一般市民 ・後援を愛媛大学地域創成研究センターよりいただいた。
補助費を使用した成果物等	

地域創成研究センター登録研究会・地域貢献組織 平成22年度 補助団体活動報告書

平成23年 3月31日

研究会名	愛媛ボン菓子研究会
代表者名	和田 寿博 教授（代表）・丹下 晴喜 准教授
本年度の活動概要	<p>本研究は、日本と世界で親しまれ、特に愛媛県における結婚式の引き出物（おいり、嫁入り菓子）として発達しているボン菓子の食文化と経営に関する調査研究および担い手の養成による大学と地域の活性化を進める実践的研究である。なお、本研究は愛媛大学法文学部総合政策学科経営管理論研究室が2003年より取り組んでいる「愛媛の学生・若者による地域振興と人材育成事業」（通称：愛媛の学生・若者によるChallenge Job Club）の成果に基づくものである。</p> <p>(1) ボン菓子の食文化と経営に関する調査研究 (2) ボン菓子の担い手の養成による大学と地域の活性化およびボン菓子業の経営実践</p>
補助費を使用した活動とその費用内訳	<p>補助費を申請し、1万円の補助費を得たが、活動に使用しなかった。 補助金は、当初、調査に関する謝金にあてる予定であったが、使用しなかった。</p>
補助費を使用した成果物等	

地域創成研究センター登録研究会・地域貢献組織 平成22年度 補助団体活動報告書

平成23年3月31日

研究会名	身体学・遊びとスポーツ研究会
代表者名	和田 寿博
本年度の活動概要	<p>概要：本研究は、愛媛県内外における身体学および遊びとスポーツに関する調査研究および担い手の養成による大学と地域の活性化を進める実践的研究である。</p> <p>具体的活動</p> <p>(1) 身体学・遊びとスポーツに関する調査研究 ・愛媛大学学生の太極拳に関する調査</p> <p>(2) 身体学・遊びとスポーツによる大学と地域の活性化および遊びとスポーツの経営実践 ・10月23日「Work Shop 美的太極拳－健康な心身になーれ！－」後援</p>
補助費を使用した活動とその費用内訳	<p>補助費を申請し、2.5万円の補助費を得たが、活動に使用しなかった。</p> <p>補助金は、当初、研究に招聘した講師の謝金にあてる予定であったが使用しなかった。</p>
補助費を使用した成果物等	

地域創成研究センター登録研究会・地域貢献組織 平成22年度 補助団体活動報告書

平成23年3月31日

研究会名	愛媛大学「資料学」研究会
代表者名	松原 弘宣（法文学部人文学科教授）
本年度の活動概要	<p>愛媛大学「資料学」研究会の本年度の活動は以下の通りである。</p> <p>2010年7月7日：研究例会</p> <p>10月9日：公開シンポジウム「東アジアの出土資料と情報伝達」, 愛媛大学法文学部人文学会との共催。全国, 海外より約50名の参加をえた。</p> <p style="padding-left: 2em;">陳 偉「秦簡牘研究の新段階」 通訳：廣瀬薫雄, コメント：工藤元男 金慶浩「韓国の木簡研究 現況」通訳：佐々木正治, コメント：金秉駿</p> <p>10月10日：公開シンポジウム</p> <p style="padding-left: 2em;">藤田勝久「中国簡牘にみえる文書伝達と交通」 平川 南「日本古代における文字使用」 鈴木景二「日本古代の出土資料, 伝世資料と情報伝達」 佐藤 信「日本古代の出土資料研究の課題」 松原弘宣「古代の情報伝達と世論形成」</p> <p>2011年2月26日：愛媛大学「資料学」研究会共催 松原弘宣「私と古代史研究」, 内田九州男「菅笠考」</p> <p>なお2010年10月の公開シンポジウムの成果は『資料学の方法を探る』10号で公表した。</p>
補助費を使用した活動とその費用内訳	補助金20万円のうち, 199,850円を報告書『資料学の方法を探る』10号の公刊費用に充当した。
補助費を使用した成果物等	『資料学の方法を探る』10号

地域創成研究センター登録研究会・地域貢献組織 平成22年度 補助団体活動報告書

平成23年2月17日

研究会名	愛媛大学法文学部多文化社会研究会
代表者名	山川 廣司
本年度の活動概要	<p>本研究会は、本年度の全体活動として公開講演会・研究集会の後援と地域創成研究センターとの共同で文化講座を開講した。</p> <p>①2010年10月30日(土)13:30~16:00 愛媛大学南加記念ホール, 31日(土)10:00~16:00法文学部大会議室で、愛媛大学「四国遍路と世界の巡礼」公開講演会・研究集会を開催し、1日目約150名、2日目85名の参加を得て、種智院大学教授頼富本宏氏の講演の他、学内外4名の研究報告と1名から全体へのコメントがあり、活発な議論が行われた。</p> <p>②地域創成研究センターと「平成22年度mitまちなか大学 文化講座「異文化との出会いー世界各地の文化散策ー」(2010年11月19日, 12月10日, 2011年1月14日, 2月18日の計4回)をコムズで市民を対象に開催した。今年度は18:30から開始したこともあり、平均で20名の参加があり、好評を得た。</p>
補助費を使用した活動とその費用内訳	<p>交付していただいた補助金は20万円です。</p> <p>①「四国遍路と世界の巡礼」公開講演会・研究集会のポスター・チラシ作成費として74,550円を支出した。</p> <p>②シンポジウム、講演会等のこれまでの活動記録のデジタル保存用にフィルムスキャナー(9,800円)を購入した。</p> <p>③文化講座「異文化との出会い」講義担当者4名に講義準備に関わる物品費として各人に20,000円を支給し、支援した。また講演会・文化講座等で使用するためにプレゼンテーションマウス(34,800円)、その他事務用品として、これまで蓄積されてきたデータの保管と資料整理のためのボックスホルダー等の文具を購入した。</p>
補助費を使用した成果物等	・愛媛大学「四国遍路と世界の巡礼」公開講演会・研究集会のポスター・チラシ

地域創成研究センター登録研究会・地域貢献組織 平成22年度 補助団体活動報告書

平成23年 4月12日

研究会名	都会と田舎を結ぶ食育ネット
代表者名	農学部農山漁村地域マネジメント特別コース 准教授 小田 清隆
本年度の活動概要	<p>本団体は、都会の小学生と田舎の大学生を中心とした食育交流を活動の柱としている。今年度は夏・秋・冬の田舎体験と秋の都会での販売体験、鎌倉市内の寺院での修行体験等を行った。小学生の活動支援を本団体の大学生が行うという形で進めており、双方に学びの場を提供している。</p> <p>すべての活動の子供たちの参加者数は80名程度、関わった学生は20名以上にのぼる。さらに、従来の内子町のみでの活動から、愛南町との連携を行ったり、廃校小学校を地域住民と活用するなど新しい一歩を踏み出している。今後も、地域により密着するとともに、子ども、学生・地域の方々のそれぞれの学びにつながるようなものにしていきたい。</p>
補助費を使用した活動とその費用内訳	<p>旅費1については、都会での販売体験に愛媛スタッフとして大学生を1名派遣した。旅費2については、都会の子供たちの愛媛での冬体験の際、2名分の旅費・宿泊費として支出した。旅費3については、鎌倉での寺院修行体験の1名分の派遣費用です。なお、交流については相互交流を意図しており、助成金をいただいた時以降の行事に沿って旅費として使用した。</p> <p>文具については、名札・マジック等、事務的用品に使用。ネーブル他については、鎌倉での交流の際に、地域農産物のPRに使用した。</p>
補助費を使用した成果物等	http://syokuikunet.web.fc2.com/Activity_Reports1.html

地域創成研究センター登録研究会・地域貢献組織 平成22年度 補助団体活動報告書

平成23年 3月31日

研究会名	愛媛大学GIS研究会												
代表者名	山岸 宏光												
本年度の活動概要	<p>組織全体の本年度の活動概要は以下のとおりです。</p> <p>1) 平成22年6月24日に幹事会を開催して、本年度の活動方針を決めた。それにしたがって、2) 10月15日に3回目の研究会を開催し(20名参加)、3) 同年11月19日に本学メディアセンターにて、2回目の「GIS Day in 四国」を開催し、セミナーと実習に社会人など合計70名の参加があった。詳細については、添付資料を参照。</p> <p>また、1月20-21日、2月25日には、学生と社会人向けに理学部のPC室でGIS実習を行った(延べ10名参加)。また、本GIS研究会を母体に、来るべき東南海・南海地震対策としての「防災GIS研究会」(四国地方整備局、愛媛県、各市町などで構成)が立ち上がった。また、これらの成果と今後の四国のGIS活動のために、徳島大学での「四国GISシンポジウム」(2月22-23日)に本研究会の代表と副代表が出席した。さらに代表は大阪のGIS総研で、今後の協力方について打ち合わせを行った。</p>												
補助費を使用した活動とその費用内訳	<p>本研究会の活動と野外実習のために、GISと連動して地図化するために安価なGPSを購入した。また、上記のように、旅費として「四国GISシンポジウム」とGIS総研との打合わせに使用した。また、若干の消耗品を購入した。</p> <p>支出内訳は以下のとおり。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">GPS (送料込み)</td> <td style="text-align: right;">20,139円</td> </tr> <tr> <td>メール便 5通</td> <td style="text-align: right;">375円 (GIS Day ~ の後援申請等)</td> </tr> <tr> <td>出張費 (山岸代表)</td> <td style="text-align: right;">51,780円</td> </tr> <tr> <td>出張費 (堤代表)</td> <td style="text-align: right;">22,800円</td> </tr> <tr> <td>USB</td> <td style="text-align: right;">4,906円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: right;">100,000円</td> </tr> </table>	GPS (送料込み)	20,139円	メール便 5通	375円 (GIS Day ~ の後援申請等)	出張費 (山岸代表)	51,780円	出張費 (堤代表)	22,800円	USB	4,906円	計	100,000円
GPS (送料込み)	20,139円												
メール便 5通	375円 (GIS Day ~ の後援申請等)												
出張費 (山岸代表)	51,780円												
出張費 (堤代表)	22,800円												
USB	4,906円												
計	100,000円												
補助費を使用した成果物等													